

209

こんにちは。塾長の大井です。

長かった緊急事態宣言もようやく解除され、ついに TOP での授業が再開できそうです。

さて今春は、過去最高最多の合格を生徒たちと分かち合うことができました。私たちが日夜心と技を注ぎ、子どもたちが日々努力を重ね、クラス全体が one team となって勝ち得た結果でした。今回からそんな彼ら 6 期生の受験戦記を記します。彼らとの濃密だった日々を残し、その足跡が彼らの前途と、今後の TOP を照らす灯台となるようお願いを込めて。6 期生、改めて入学おめでとう。

2020 年、2 月。

開成中、筑波附属中、渋谷教育渋谷中、海城中、吉祥女子中。

その他多くの合格に沸き、快哉を叫ぶ TOP 6 期生の輪の中に、もう 1 人の TOP 生 OG が混じっていました。

それが5期生のMさんでした。去年受験を戦ったばかりの彼女は本番に臨む6期生の激励に駆けつけ、1点の重みを何度も何度も語り、彼らの合格にひとかたならぬ大きな役割を果たしてくれました。

6期生受験戦記のプロローグとして、未完だった5期生Mさんの歩みを振り返ることから始めたいと思います。

最短距離を猛スピードで駆け抜ける。

そんな合格の仕方もあるでしょうが、私たちが立ち上げたTOPには、そんな生徒は1人もいませんでした。「できる生徒を集める」ではなく、「生徒をできるまで育てる」。それこそが、難関中学受験専門塾TOP開校以来の理念であり、私たちの原点でした。

小4の途中から入会した5期生MさんもそんなTOPismを体現するような生徒でした。

彼女との出会いはよく覚えています。それはMさんが初めてTOPの授業を受けた体験授業でのことでした。TOPでは毎回チェックテストがあり、みんな準備をして臨むのですが、その日初登校のMさんは当

然準備はできず、実力で漢字のテストを受けました。結果はクラス首位とはいかないながら、上位に食い込むなかなかの好成績でした。

私は「なかなかいいぞ。」が褒めると、彼女は「そこそこじゃダメなんだよ。」と悔しそうな表情でつぶやきました。それを聞いた瞬間、(この子はものになるかもしれない!)と、強く感じました。

中学受験においては、いろいろな資質が求められます。漢字計算などの基礎学力、知的好奇心、素直に真似をする姿勢などです。ですが、それはある程度 TOP で磨き育てることができます。むしろ私たちが最も重視するのは、何がなんでもやり抜く、勝つまで貫徹する。そんな強い不屈の意志です。それは何より得難く、何より重要な能力です。

M さんからはそんな稀有な才能の片鱗を感じました。

(次回につづく)

2020年6月1日

大井雄之